

# プログラム

2009年10月22日(木) 第1日

9:00-10:30	受付 2階ロビー
10:30-11:00	ご挨拶 5階大ホール DIA William Brassington 東京慈恵会医科大学 景山 茂
11:00-12:30	プレナリーセッション 5階大ホール 11:00-11:45 ■ 基調講演1 座長：東京慈恵会医科大学 景山 茂 「国際化時代における行政の課題と取組みの方向」 厚生労働省 岸田 修一 11:45-12:30 ■ 基調講演2 座長：千葉大学 黒川 達夫 「国際化時代における日本の製薬企業が向うべき方向性」 アステラス製薬株式会社 竹中 登一
12:30-13:30	昼食 2階展示会場「瑞雲」 軽食をご用意しております(無料)
13:30-15:00	セッション1

TRACK A 5階大ホール	TRACK B 2階「福寿」	TRACK C 2階「桃源」
----------------	----------------	----------------

<p>セッション1 Global Development: 実践上の課題— 臨床上のオペレーション上の問題点</p> <p>座長 慶應義塾大学 佐藤 裕史 万有製薬株式会社 海老原 恵子</p> <p>ケーススタディ: 施設の取組み</p> <p>13:30-13:55 医師の立場から 慶應義塾大学 佐藤 裕史</p> <p>13:55-14:20 医師からみたグローバル試験の実践 国立がんセンター東病院 土井 俊彦</p> <p>14:20-14:40 CRCの立場から 国立がんセンター中央病院 中濱 洋子</p> <p>14:40-15:00 CRCの立場から 新潟大学医歯学総合病院 鈴木 由加利</p>	<p>セッション1 Communication: 患者とのコミュニケー- ション</p> <p>座長 北海道大学 永井 栄一 ファイザー株式会社 小野 嘉彦</p> <p>13:30-13:50 患者とのコミュニケーション —企業の社会活動としての視点から— ファイザー株式会社 奥沢 徹</p> <p>13:50-14:10 患者とのコミュニケーション —試験に参加する立場から— 株式会社日経BP 北澤 京子</p> <p>14:10-14:30 患者とのコミュニケーション —患者が参加する安全対策に向けて— 厚生労働省 森 和彦</p> <p>14:10-14:30 一般の方への医薬品情報提供の現状と問題点 —おくり相談によるコミュニケーション— 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 木村 幸一郎</p>	<p>セッション1 電子化: 医薬品開発における 電子化の現状と展望</p> <p>座長 金沢大学 古川 裕之 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 庄本 幸司</p> <p>13:30-14:00 医薬品開発における電子化交換標準の実態と 今後の動向 東京大学 小出 大介</p> <p>14:00-14:30 医薬品開発におけるIT化の方向性 ヤンセンファーマ株式会社 足立 武司</p> <p>14:30-15:00 最新のEDCシステム及びEDCシステムを用いない 試験のIT化の模索 魚井技術士事務所 魚井 徹</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

15:00-15:30	コーヒーブレイク 2階展示会場「瑞雲」
15:30-17:00	セッション2

TRACK A 5階大ホール	TRACK B 2階「福寿」	TRACK C 2階「桃源」
----------------	----------------	----------------

<p>セッション2 Global development: 実践上の課題に ついて(続き)</p> <p>座長 慶應義塾大学 佐藤 裕史 万有製薬株式会社 海老原 恵子</p>	<p>セッション2 開発戦略のパラダイムシフト—ファーマコメ- トリックスが拓く新たな意思決定プロセス—</p> <p>座長 東京大学 山口 拓洋 株式会社ヘルシステム24 笠井 英史</p>	<p>セッション2 電子化: 電子化された試験の品質</p> <p>座長 ヤンセンファーマ株式会社 足立 武司 第一三共株式会社 藤川 明世</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------

15:30-17:00	セッション2		
<b>TRACK A 5階大ホール</b>		<b>TRACK B 2階「福寿」</b>	
<p>セッション2 Global development : 実践上の課題について(続き)</p> <p>ケーススタディ : 企業の取り組み</p> <p>15:30-15:45 グローバル治験に参加する際の臨床オペレーションにおける実践上の問題点 中外製薬株式会社 藤原 英城</p> <p>15:45-16:00 グローバル開発における実践上の課題 エーザイ株式会社 津野 昌紀</p> <p>ケーススタディ : 総合機種の視点から</p> <p>16:00-16:15 対面助言でよくある国際共同治験に関する検討事項 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 宇山 佳明</p> <p>16:15-17:00 パネルディスカッション パネリスト : 上記の講演者 及び ファイザー株式会社 白沢 博満</p>		<p>セッション2 開発戦略のパラタイムシフト~ファーマコメトリックスが拓く新たな意思決定プロセス</p> <p>15:30-15:50 FDAにおけるファーマコメトリックス活用事例 (FDAからの講演者未定)</p> <p>15:50-16:05 新薬開発における既知情報の最大活用 ワイス株式会社 土綿 慎一</p> <p>16:05-16:20 Quantitative Decision Makingの一例の紹介 ファイザー株式会社 井 洋一</p> <p>16:20-17:00 パネルディスカッション パネリスト : 上記の講演者 及び 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 安藤 友紀 第一三共株式会社 塚本 淳</p>	
<b>TRACK C 2階「桃源」</b>			
		<p>セッション2 電子化 : 電子化された治験の品質</p> <p>15:30-16:00 電子記録・電子署名規制の最新動向 株式会社山武 渡辺 正光</p> <p>16:00-16:30 電子化された治験データに対する信頼性調査について 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 田島 康則</p> <p>16:30-17:00 電子化治験の調査を受けた経験から ワイス株式会社 有働 建史</p>	
17:30-20:00	レセプション	2階展示会場「瑞雲」	
18:30-20:00	ミニ・セッション “What is the DIA World?”	2階「福寿」	セッション座長 東京大学 小野 俊介

<b>2009年10月23日(金) 第2日</b>			
8:30-9:15	受付	2階ロビー	
9:15-10:45	セッション3		
<b>TRACK A 5階大ホール</b>		<b>TRACK B 2階「福寿」</b>	
<p>セッション3 Global Development : 世界同時開発において日本の生み出す付加価値とは?</p> <p>座長 ファイザー株式会社 白沢 博満 メルツファーマシューティカルス 村尾 典昭</p> <p>9:15-9:45 グローバル開発への挑戦 —日本企業の立場から— アステラス製薬株式会社 横田 智広</p> <p>9:45-10:15 国際共同開発は臨床開発の体質、改善のチャンス パナリティスファーマ株式会社 稲津 水穂</p> <p>10:15-10:45 Key Player in the Changing Global R&amp;D World アストラゼネカ株式会社 Patrick Keohane</p>		<p>セッション3 早期探索的臨床試験の現状と将来展望</p> <p>座長 横浜国立大学 東京大学 池田 敏彦 ワイス株式会社 関根 恵理</p> <p>9:15-9:30 早期探索的臨床試験 Overview 第一三共株式会社 三浦 慎一</p> <p>9:30-9:45 早期探索的臨床試験への期待、 推進のための取り組み 田辺三菱製薬株式会社 山田 一磨呂</p> <p>9:45-10:05 早期探索的臨床試験の日本における現状 北里大学 熊谷 雄治</p> <p>10:05-10:45 パネルディスカッション パネリスト : 上記の講演者 及び 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 宇山 佳明</p>	
<b>TRACK C 2階「桃源」</b>			
		<p>セッション3 DSMBと効果安全性評価委員会の相違点</p> <p>座長 医薬品医療機器総合機構 三澤 馨 日本公定書協会 小山 弘子</p> <p>9:15-9:45 現状について—企業の立場から— エーザイ株式会社 Stewart Geary</p> <p>9:45-10:15 問題点と期待 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 佐藤 淳子</p> <p>10:15-10:45 医療サイドから 財団法人 国際医学情報センター 相川 直樹</p>	

プログラム 2009年10月23日(金) 第2日目(続き)

10:45-11:15	コーヒーブレイク 2階展示会場「瑞雲」
11:15-12:45	セッション4
<b>TRACK A 5階大ホール</b>	
<b>セッション4</b> <b>Global Development : ~必要とされるコミュニケーション~</b> <b>国際共同治験実施時の国内外Sponsor・CRO・施設間の効果的なコミュニケーション</b> 座長 シミック株式会社 大石 圭子 万有製薬株式会社 田中 義信 11:15-11:45 国際共同治験をCROに業務委託する際に留意すべきこと ノバルティスファーマ株式会社 藤居 靖久 11:45-12:15 国際共同治験のCROの使用経験 第一三共株式会社 大平 武史 12:15-12:45 CROの視点から シミック株式会社 小作 寛	
<b>セッション4</b> <b>バイオマーカーの探索と評価</b> 座長 北里大学 熊谷 雄治 東京大学 荒川 義弘 11:15-11:35 アルツハイマー病におけるバイオマーカー探索の取り組み：J-ADNI 東京大学 岩坪 威 11:35-12:05 腎毒性バイオマーカーの適格性評価：安全性予測試験コンソーシアムの最新事例 Novartis Pharmaceuticals Kevin Carl 12:05-12:25 神経変性疾患の分子標的治療：SBMAの医師主導治験 名古屋大学 祖父江 元 12:25-12:45 規制当局によるバイオマーカーの応用に向けた国際協働への取り組み 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 石黒 昭博	
<b>セッション4</b> <b>Risk Management : Signal Detection-市販後を中心に-</b> 座長 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 佐藤 淳子 エーザイ株式会社 高橋 春雄 11:15-11:35 Overview of CIOMS VII 株式会社アーテジ 内山 明好 11:35-11:55 PMDAの新しい取り組み 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 石黒 智恵子 11:55-12:15 薬剤安全対策におけるシグナル検出とリスクマネジメント：バイオテクノロジー企業の見地から アムジェン株式会社 柴田 敦子 12:15-12:45 パネルディスカッション パネリスト：上記の演者	
12:45-13:45	屋食 2階展示会場「瑞雲」 軽食をご用意しております(無料)
13:45-15:15	ラウンドテーブルディスカッション 5階大ホール <b>Regulatory Update:Global Developmentにおける日本の価値</b> 座長 グラクソ・スミスクライン株式会社 岩崎 甫 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 佐藤 淳子 パネリスト 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 豊島 聰 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 宇山 佳明 北里大学 熊谷 雄治 東京大学 荒川 義弘 国立がんセンター中央病院 藤原 康弘 第一三共株式会社 廣川 和憲 ファイザー株式会社 原田 明久 ノバルティス ファーマ株式会社 Michael J. Ferris
15:15-15:45	コーヒーブレイク 2階展示会場「瑞雲」
15:45-17:15	アスク・ザ・レギュレーターズ “規制当局に聞く” 5階大ホール 座長 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 宇山 佳明 東京大学 小野 俊介 レギュレーター 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 本田 二葉、野村 由美子、斉藤 和幸、山田 博章、井口 豊崇、荒戸 照世
17:15-17:30	閉会のご挨拶 東京慈恵会医科大学 景山 茂
17:30	カンファレンス終了

本カンファレンスにて発表される内容は発表者本人の見解であり、所属する組織、あるいはDIAのものとは限りません。発表者および講演タイトルは予告なく変更されることがあります。書面における合意なく、DIAカンファレンスの情報を録音することはいかなる形態であっても禁止されております。

## 臨床研究方法論セミナーのご案内

主催： 東京大学大学院医学系研究科 臨床試験データ管理学講座

後援： 東京大学医学部附属病院 22 世紀医療センター

東京大学トランスレーショナルリサーチ推進センター(交渉中)

下記の要領で開催致します。詳細は「お申込方法」の欄をご覧ください。

### —記—

[科目] 「臨床研究方法論」(大学院等の単位科目ではありません)

[時期] ベーシックコース 2009 年 10 月 30 日(金)、31 日(土)、11 月 27 日(金)、28 日(土)  
アドバンスドコース 12 月 18 日(金)、19 日(土)

[時間] 9 時半～16 時半(お昼休み含む)

[場所] 東京大学医学部教育研究棟 14 階 鉄門記念講堂(10 月)、附属病院入院棟 A 15 階 大会議室(11, 12 月)

[対象] 医学研究者(東大内外問わず)、機構・官庁、企業関係者も可

[定員] ベーシックコース 80 名程度、アドバンスドコース 30 名程度

[内容] ベーシックコースは、臨床研究を計画・実施・解析・報告するうえで最低限必要な知識や考え方が身につくような内容とします。アドバンスドコースでは、データ管理に焦点をあて、より専門的な内容を講義・実習します。

[資料] こちらで用意致します。

[資料代]

#### ベーシックコース

- ・ 医療従事者(医学研究者)、行政関係者 20,000 円
- ・ その他 40,000 円

#### アドバンスドコース

- ・ 医療従事者(医学研究者)、行政関係者 10,000 円
- ・ その他(定員に空きがあれば) 20,000 円

※ ベーシックコースとアドバンスドコースは両方受講可能です。

※ 全コマまとめて上記の金額となります。

※ お振込後の返金等は致しかねますので、予めご了承下さい。



[プログラム]

ベーシックコース

10月30日(金)	09:20-09:30	本セミナーの趣旨とプログラムの説明 山口 拓洋(東京大学臨床試験データ管理学)
	09:30-12:30	臨床試験の計画とプロトコール作成 林健一(アラメディック株式会社)
	13:30-16:30	臨床研究のマネジメントと実際 山本晴子(国立循環器病センター)
10月31日(土)	09:30-12:30	臨床データ管理学 大津洋(東京大学臨床試験データ管理学)
	13:30-16:30	臨床研究における倫理とインフォームドコンセント 佐藤恵子(京都大学遺伝カウンセラー・コーディネータユニット)
	09:30-12:30	臨床研究デザイン 大橋靖雄(東京大学生物統計学)
11月27日(金)	13:30-16:30	臨床研究における安全性情報の取り扱いと薬剤疫学 久保田潔(東京大学薬剤疫学)
	09:30-12:30	臨床研究をとりまく医薬品行政 小野俊介(東京大学医薬品評価科学)
11月28日(土)	13:30-16:30	臨床研究における品質管理と品質保証 村山浩一(株式会社イーコンプライアンス)

アドバンスドコース

本コースは、グループ実習を中心に行います。申し込み時に、PCの持ち込みが可能な方は、備考欄に「PC持ち込み可」と記入ください。

12月18日(金)	09:30-12:30	クリニカルデータマネジメントの役割
	13:30-16:30	臨床データの品質とは何か?
12月19日(土)	09:30-12:30	統計学の考え方とデータ管理
	13:30-16:30	電子化の進展とデータマネジメント 大津洋(東京大学臨床試験データ管理学) 横堀真(株式会社スーザック)

※ 講義タイトルは全て仮のものです。講師の先生方は敬称略。

[注意事項]

- ・ 講義中携帯電話をマナーモードにお切り替えください。講堂・教室内での通話をご遠慮ください
- ・ 白衣等を着たままでの受講や講堂内での飲食もご遠慮下さい。
- ・ 空調で室内の温度全体を均一にすることは困難なため、予め上着等で調節できるようご準備ください。

平成21年8月18日

### 第3回 ナースのための臨床試験セミナー 開催のご案内

1. 概要 臨床試験に関する基礎的な知識の習得を目指します。また、臨床試験の現場で活躍する看護師の実例、海外でのリサーチナースの現状、患者の臨床試験や看護師に対する思いなど、多方面から臨床試験と看護について解説します。初心者の方にもわかりやすい内容ですので奮ってご参加下さい。「臨床試験を推進するために看護師として何かできるか」を皆さんで考えましょう。
2. 対象者 医療機関所属の看護師  
\*看護職以外の方の参加も歓迎致します。
3. 募集人員 100名
4. 講師 佐藤 敏彦(北里大学医学部附属臨床研究センター 副センター長・教授)  
濱野 鉄太郎(北里大学臨床薬理研究所 臨床試験コーディネーティング部門)  
HeeSun Kim-Suh (University of Oklahoma Health Science Center)  
小原 泉(自治医科大学看護学部/大学院看護学研究科/附属病院 准教授)  
安部 陽子(社団法人日本看護協会 看護教育研究センター 教育研究部継続教育係)  
柳澤 昭浩(NPO法人キャンサーネットジャパン 事務局長)
5. 日程 平成21年10月31日(土)10:00-18:10 プログラムは別紙参照
6. 会場 北里大学薬学部 1号館 1501号室
7. 主催 北里大学 / 慶應義塾大学 / 順天堂大学
8. その他 (1)本セミナーの受講料は無料です。  
(2)英語の講義には、同時通訳がつきます。  
(3)全ての講義を受講した方には、セミナー終了後に修了書を授与致します。  
修了書はセミナー当日終了後にお渡し致します。  
(4)応募者多数の場合には先着順とさせていただきます。  
(5)別紙 受講申込書にご記入の上、平成21年10月9日(金)までにセミナー事務局宛にFAXにてお申込下さい。参加の可否をメールにてご連絡致します。  
メールアドレスが無い場合のみFAX連絡とさせていただきます。  
(6)会場近辺は食事ができる場所が少ないため、各自昼食を持参されることをお勧め致します。  
会場内での飲食は可能です。  
(7)セミナー後、同じ敷地内レストランにて情報交換会を予定しております。会費は2,500円の予定です。

本セミナーに関するお問い合わせは、下記事務局までお願い申し上げます。

ナースのための臨床試験セミナー 事務局  
(北里大学臨床薬理研究所 臨床試験コーディネーティング部門)



# 第3回 ナースのための臨床試験セミナー

～ 2009年10月31日(土)10:00-18:10 北里大学薬学部 1号館 1501号室 ～

-プログラム-

受付は 09:30-10:00 です

英語での講演には、同時通訳がります

時間	講演内容	講師	所属	担当
10:00-10:05	開会のことば	竹内 正弘	北里大学薬学部 臨床医学(臨床統計学・医薬開発学) 教授	竹内 正弘
10:05-10:35	「EBMと臨床試験」 Evidence-based Medicineにおける臨床試験の位置づけ、治験と臨床試験の違い、臨床試験の種類等、臨床試験の基礎について解説します。	佐藤 敏彦	(北里大学医学部附属臨床研究センター 副センター長・教授)	竹内 正弘
10:35-11:35	「ナースのための生物統計学入門」 統計学は苦手だと思いませんか？ ナースに必要な統計学の基礎をわかりやすく説明します。	濱野 鉄太郎	(北里大学臨床薬理研究所 臨床試験コーディネーティング部門)	竹内 正弘
11:35-12:35	Clinical Trial Nursing in the US: Daily Activities as a Research Nurse 「米国」におけるリサーチナースの1日 米国の臨床試験を発売に行う医療機関では、リサーチナースが活躍しています。 リサーチナースの業務内容、役割と實務について現役リサーチナースが紹介します。 (同時通訳がります)	HeeSun Kim-Suh (University of Oklahoma Health Science Center)		青谷 恵利子 (北里大学臨床薬理研究所 臨床試験コーディネーティング部門 室長)
12:35-13:35	休憩(昼食)			
13:35-14:15	「臨床試験における看護師の役割」 臨床試験の様々な場面で活躍する看護師の実例、臨床試験看護に関する教育の現状についてお話しします。	小原 泉	(自治医科大学看護学部/大学院看護学研究科/附属病院 准教授)	青谷 恵利子
14:15-16:15 (移動時間を含)	グループディスカッション: 「施設における臨床試験を推進するために看護師として何かできるか」 小グループに分かれて自由にディスカッションします。	参加者 全員		
16:15-17:00	グループディスカッション 発表			
17:00-17:30	「臨床試験と看護-看護協会の立場から」 日本看護協会が計画・実施する「看護師を対象とした臨床試験に関する講習」 について紹介します。	安部 陽子 (社団法人日本看護協会 看護教育研究センター 教育研究部継続教育係)		猪又 克子 (北里大学病院 看護部 教育担当科長)
17:30-18:00	「臨床試験と看護師に対する患者の思い」 患者の一番近くにいる看護師に患者は何を期待しているのか 患者支援団体の立場から感じることをお伝えします。	柳澤 昭浩 (NPO法人キャンサーネットジャパン 事務局長)		猪又 克子
18:00-18:10	閉会のことば	佐藤 敏彦		
18:10-20:00	情報交換会 -北里大学構内レストランにて			

本セミナーは 平成19年度大学改革推進等補助金  
「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」臨床研究人材育成コンソーシアム  
により開催いたします

# 第36回 日本小児臨床薬理学会

The 36<sup>th</sup> Japan Society of Developmental Pharmacology and Therapeutics 2009



と き：2009年11月20日(金)、21日(土)

と ころ：かがわ国際会議場

(香川県高松市サンポート2-1 TEL 087-825-5120)

会 長：伊 藤 進 (香川大学医学部小児科)

## 有効で安全な“くすり”を日本の子どもに

特別講演 ● 生命医学倫理と薬理ゲノム研究

講師 松田 一郎 (北海道医療大学)

招待講演 ● PMDAにおける医薬品審査と小児医薬品に対する取り組みについて

講師 北窓 隆子 (独立行政法人医薬品医療機器総合機構)

教育講演 ● 薬物の乳汁移行の科学的理解

講師 伊藤 真也 (トロント小児病院)

教育講演 ● “The in silico child” – Modeling&Simulationを使った医薬品開発の可能性

講師 谷河 賞彦 (バイエル薬品株式会社)

シンポジウム ● アジアの小児薬理学の連携について

座長 中村 秀文 (国立成育医療センター)

伊藤 真也 (トロント小児病院)

シンポジウム ● 小児禁忌薬の解決戦略

座長 山崎 俊夫 (藤田保健衛生大学)

入江 徹美 (熊本大学)

シンポジウム ● 小児薬物療法の新展開を目指した薬剤師のあり方と期待

座長 石川 洋一 (国立成育医療センター)

冨家 俊弥 (昭和大学)

シンポジウム ● 小児薬用量をどのように決めるべきか

座長 越前 宏俊 (明治薬科大学)

中川 雅生 (滋賀医科大学)

シンポジウム ● 小児用薬剤の適応拡大及び開発を目指して

座長 河田 興 (国立病院機構香川小児病院)

尾崎 雅弘 (ユーシービージャパン株式会社)

事務局

香川大学医学部小児科学講座

〒761-0793 香川県木田郡三木町池戸1750-1

TEL: 087-891-2171 FAX: 087-891-2172

E-mail: iyakuri@med.kagawa-u.ac.jp

<http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~syounika/36jsdpt/>



▶ HOME

▶ 開催概要

▶ 日程表

▶ プログラム

▶ 演題募集

▶ 一般演題採択

▶ 事前参加登録・宿泊申込

▶ 共催セミナー・企業展示

▶ 会場・交通案内

▶ 関連集会

▶ お問い合わせ

## プログラム

### 特別講演

1. 「グローバル化時代における新薬開発の未来」
2. 「サイエンスが拓く薬物療法の未来」
3. 「細胞シート再生治療の現状と将来展望」

### 教育講演

1. 「がん領域における分子標的療法の現状」
2. 「副作用の個人差と遺伝子多型」
3. 「PK-PD理論の新展開」
4. 「warfarin療法の実際」
5. 「ヘルシンキ宣言、臨床研究の倫理指針の改訂がもたらしたインパクトについて」
6. 「薬物間相互作用の新知見」
7. 「新型インフルエンザとワクチン開発」
8. 「糖尿病の治療と新薬開発の現状」

### シンポジウム

1. 「Global Studyでの臨床薬理学の貢献」
2. 「臨床試験の精度を高めるプロトコールとCRF」
3. 「GSK-3シグナル伝達経路を標的とする治療薬・診断法の開発」
4. 「国際共同治験の現状と課題」
5. 「薬物の有害事象・副作用の収集・評価方法などについて」
6. 「ゲノム創薬の最新動向と展望」 (公募)
7. 「医薬品開発におけるPK-PD試験とClinical trial simulation」
8. 「我が国の製造販売後調査のあり方」
9. 「わが国における臨床研究スタッフのあり方を考える  
—SCRIP (Senior Clinical Research Professionals) をめぐって」
10. 日本臨床薬理学会・日本薬理学会共催シンポジウム  
「糖尿病薬 新薬開発とClinical/Research Questionの解決」
11. 「マイクロドーズ臨床試験の現状と未来」
12. 「非臨床データのヒトへの外挿」
13. 「抗リウマチ薬の現状と問題点」
14. 「大規模臨床試験の基盤整備：ルール・ファンド・利益相反」
15. 「ファーマコゲノミクスの現状と課題」 (公募)
16. 「日本のジェネリック医薬品の現状と課題を国際的視野で考える」
17. 「臨床研究の実施体制の構築」
18. 「抗悪性腫瘍薬開発における臨床薬理研究の役割」
19. 「臨床研究における臨床薬理学の貢献」

### ワークショップ

1. 「臨床試験とバイオマーカー」
2. 「ジェネリック医薬品：多様化する選択肢の中でどう選ぶか」
3. 「治験/臨床研究の説明文書を作成するためのスキルアップ」

### 関連シンポジウム

1. 第5回日韓臨床薬理合同シンポジウム  
2009年12月5日(土) 13:00~17:00(予定)
2. 日本薬剤学会薬物相互作用フォーカスグループ合同シンポジウム  
「様々な視点から見た薬物間相互作用」  
2009年12月4日(金) 午後(予定)

※その他、30回記念講演、ランチョンセミナー、イブニングセミナー、モーニングセミナーを予定しております。

※各セッションテーマにつきましては、今後変更させていただく場合もございますので、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

## 関連集会

### 第16回臨床薬理学講習会（2009年度）

（本年度担当：日本臨床薬理学会認定薬剤師制度委員会）

日時：2009年12月6日（日）8:55～16:05

会場：パシフィコ横浜

主題：基礎から学ぶ臨床薬物動態

※事前参加申込を受付ける予定です。プログラム、参加費、参加申込の詳細は、臨床薬理学会ホームページをご覧ください。


問合わせ先：一般社団法人 日本臨床薬理学会事務局

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル

TEL：03-3815-1761 FAX：03-3815-1762

E-mail：clinphar@jade.dti.ne.jp

URL：http://www.jscpt.jp

 Page Top

## 2009年度 研究倫理 冬期集中コース 日程表

日時：2009年12月12日（土）～13日（日）

場所：東京大学 本郷キャンパス 医学部3号館 N101 教室

主催：東京大学 グローバル COE プログラム 「次世代型生命・医療倫理の教育研究拠点創成」 (UT - CBEL)

		講 義 内 容									
		8:30 9:00	9:10	10:00 10:10	10:50 11:00	12:30 13:30	14:45 15:00	15:45	16:30		
12月12日（土） （1日目）	受付	挨拶	講義①: 研究倫理の歴史と基本 原則 (松井 健志)	休 憩	演習①: インフォームド・コン セント (松井 健志)	昼 食	演習②: リスク・ベネフィット の評価 (田代 志門)	休 憩	講義②: 小児を対象とする研究 の倫理 (中村 秀文)	講義③: ランダム化比較試験 の倫理 (津谷 喜一郎)	意見 交 換 会
	8:30 9:00	10:00 10:10	10:50 11:00	12:30 13:30	14:45 15:00	15:45	16:30				
12月13日（日） （2日目）	受付	講義④: ヒト試料の研究利 用と倫理 (井上 悠輔)	休 憩	講義⑤: 医学研究における個 人情報保護 (松井 健志)	休 憩	演習③: 国際共同研究の倫理 (松井 健志)	昼 食	講義⑥: 研究倫理ガイドライ ンの動向 (田代 志門)	休 憩	演習④: 研究倫理支援・コンサ ルテーション (赤林 朗、松井 健 志)	まとめ・閉講の挨拶
	8:30 9:00	10:00 10:10	10:50 11:00	12:30 13:30	14:45 15:00	15:45	16:00				

※ 1日目終了後、17:00～18:00に意見交換会を開催します。(場所：未定)

# 「医師とCRCのためのワークショップ体験・評価カンファレンス」 プログラム

1月10日(日)13:00~18:00

- 開会の挨拶/司会:小林真一(聖マリアンナ医科大学薬理学 教授)
- 13:00~13:30 ポイントレッスン1: 今後の治験・臨床研究促進のための行政展望  
佐藤岳幸(厚生労働省医政局研究開発振興課 治験推進室長)
- 13:30~14:00 ポイントレッスン2: 創薬育薬医療チームに必要なコミュニケーションのポイント  
中野重行(国際医療福祉大学大学院/大分大学医学部創薬育薬医学 教授)
- 14:00~15:00 ワークショップ1: わかりやすい臨床研究事前登録  
松本直樹(聖マリアンナ医科大学薬理学 准教授)
- 15:00~15:15 (休憩)
- 15:15~15:30 ポイントレッスン3: インフォームドコンセントにおけるコミュニケーション力を高める学習法  
中野重行(国際医療福祉大学大学院/大分大学医学部創薬育薬医学 教授)
- 15:30~17:00 ワークショップ2: インフォームドコンセントの実際(ロールプレイ法による学習:模擬患者参加型)
- 17:00~18:00 総合討論

1月11日(月)9:00~15:00

- 司会:中野重行(国際医療福祉大学大学院/大分大学医学部創薬育薬医学 教授)
- 9:00~ 9:30 ポイントレッスン4: 信頼できるエビデンスを求めて  
福岡敏雄(倉敷中央病院総合診療科・医師教育研修部 部長)
- 9:30~12:00 ワークショップ3: グループワーク+発表+ディスカッション+まとめのレクチャー
- 12:00~13:00 (昼食)
- 13:00~13:30 ポイントレッスン5: 創薬育薬スタッフに知ってほしい統計学のポイント  
浜田知久馬(東京理科大学工学部経営工学科 教授)
- 13:30~14:00 ポイントレッスン6: いろいろな視点で治験を考えよう -治験のミスコミュニケーション-  
小野俊介(東京大学大学院薬学系研究科医薬品評価科学 准教授)
- 14:00~14:30 ポイントレッスン7: 臨床試験における民族差  
渡邊裕司(浜松医科大学医学部臨床薬理学 教授)
- 閉会の挨拶

「小児薬用量をどのように決めるか」

日時：平成 22 年 1 月 15 日（金） 13：30 - 17：00

場所：東京グランドホテル 3F 桜 （〒105-0014 東京都港区芝 2 丁目 5 番 2 号）  
（13：30-13：40）

開会挨拶

横田 俊平（日本小児科学会会長 横浜市立大学小児科）

講演内容

座長 中川 雅生

中村 秀文

（13：40-14：10）

1. 日本における PK/PD と小児群に対する市販後調査に対する企業の意識

香川大学医学部 小児科

伊藤 進

（14：10-14：40）

2. PK/PD 理論に基づく海外データの活用

独立行政法人医薬品医療総合機構安全第二部・国際部

佐藤 淳子

（14：40-15：20）

3. (1) 小児科疾患のガイドラインに記載された適応外使用医薬品

滋賀医科大学医学部附属病院治験管理センター

中川 雅生

(2) 小児科疾患のガイドラインに記載された薬用量の決定

国立成育医療センター 総合診療部

土田 尚

（15：20-15：50）

4. 審査報告書からみる小児薬用量決定の経緯

独立法人医薬品医療機器総合機構新薬審査第三部

立石 智則

（15：50-16：20）

5. 小児医薬品開発における薬用量設定

グラクソ・スミスクライン株式会社 臨床開発第 3 部

佐藤 且章

（16：20-17：00）

総合討論

閉会挨拶

伊藤 進（香川大学医学部 小児科）





ホーム > セミナー・集会の案内 > 第1回学術集会総会

HOME

日本臨床試験研究会の紹介

活動・ワーキンググループ

入会のご案内

賛助会員のご案内

定款

セミナー・集会のご案内

第1回学術集会

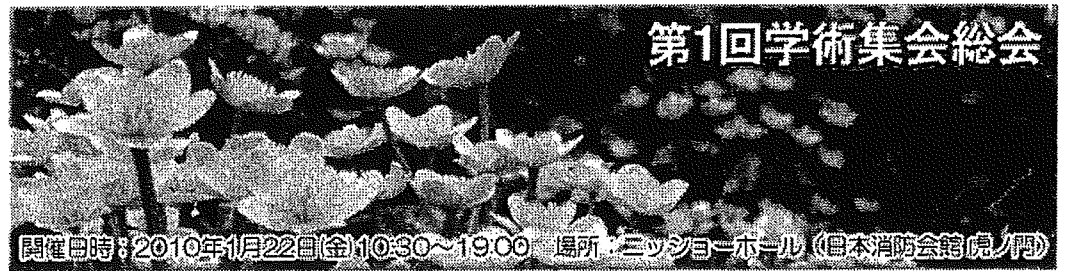
▶ 演題募集

▶ 参加申し込み

関連学会 / 関連集會

お問い合わせ

会員専用ページ



■ 学会会長挨拶

一般社団法人日本臨床試験研究会の創設にあたり、第1回学術集会を開催します。

本研究会の活動目的は、臨床試験や臨床研究に携わる幅広い専門家の方々の知識と技術の向上をはかり、日本の臨床試験・臨床研究の推進と質の向上に寄与することにあります。そのためには職種の枠を超えた情報交換と生涯教育の場が必要であり、研修会の開催、定期刊行物の発行・インターネットによる情報提供、将来的な専門職認定制度の設立などを行っていく予定です。

多くの皆さまの参加をお待ちしております。

■ 開催要項

開催日時: 2010年1月22日(金) 10:30~19:00  
 場 所: ニッショーホール(日本消防会館;虎ノ門) 地図  
 会 長: 大橋 靖雄  
 登録参加費: 事前登録 5,000円(12/22の振込みまで有効)  
 当日登録 6,000円

■ プログラム

時 間	内 容
10:30	開会の辞
10:30-12:00	オープンディスカッション 「これからの臨床試験・臨床研究;この研究会は何をめざすか?」
13:00-13:10	会長挨拶:大橋靖雄
13:10-15:40	シンポジウム1「PGxの進歩」 座長:市原伴子、大橋靖雄
16:00-16:30	会長講演「臨床試験を支援するスタッフの教育」 座長:岩崎甫
16:40-18:50	シンポジウム2「研究主導臨床試験の支援をどうするか」 座長:佐瀬一洋、青谷恵理子
18:50-19:00	次期会長挨拶:川上浩司
19:00	閉会の辞
<ポスター示説> 12:00~19:00 於/会館ロビー 19:10~20:30 情報交換会	

# 臨床研究・生物統計研究会第31回プログラム

11月10日現在 最新情報は、ホームページ(<http://ctdm.umin.jp/scbr.html>)に掲載致します。

日時

2010年1月23日(土曜) 於 東京大学弥生講堂

参加費 2000円 (会員・非会員を問わず)

(予定)

9:30-9:40 開会の挨拶 山口拓洋(東京大学:当番世話人)

9:40-12:10 <シンポジウム1> 中間解析

内容

企業あるいは研究者主導臨床試験で実施された中間解析の実例について、効果・安全性評価委員会が実際にどのように開催されるのか、委員会の場でどのような議論があるのかなども含めてご講演頂く予定です。

オーガナイザー: 山口拓洋(東京大学)、菅波秀規(興和株式会社)、

富金原悟(小野薬品工業株式会社)、山田剛久(イーピーエス株式会社)

12:10-13:10 お昼休み、世話人会

13:10-13:30 総会

13:30-14:15 <特別講演1> 久保田潔(東京大学薬剤疫学)

14:15-15:00 <特別講演2> 小野俊介(東京大学医薬品評価科学)

15:00-15:15 休憩

15:15-16:45 <シンポジウム2> クリニカルデータマネジメント オーガナイザー : 大津洋(東京大学)

16:45-17:45 <教育セッション> Model Based Drug Development (仮題)

土綿慎一(ワイス株式会社)、笠井英史(株式会社ベルシステム24)

17:45 閉会の挨拶(次回当番世話人)

※本研究会の前日になります1月22日に、「日本臨床試験研究会 第1回学術集会総会」が開催されます。最新情報は、日本臨床試験研究会ホームページ(<http://www.j-sctr.org/index.html>)をご覧ください。

お問い合わせ・ご参加申込先

臨床研究・生物統計研究会 事務局

〒113-8655 東京都本郷7-3-1 東京大学大学院医学系研究科 臨床試験データ管理学内

## SASレポートライティング1: プロシジャとODSの使用 (3日間)

173,250円(本体価格165,000円)ノチケット捺印数:3

※本コースの内容はSAS® 9.2をベースとしていますが、それ以前のバージョンを使用しているユーザーにも適しています。

### 概要

本コースでは、詳細テーブルレポート、要約レポート、リストレポートの作成方法を紹介します。また、主なアウトプット・デリバリ・システム(ODS)の出力先にレポート出力を送る方法についても学習します。

### 受講対象

SASプログラマ、データマネージャ、レポートライター、アナリスト

### 前提知識

本コースの受講には、「SASプログラミング1: 必須要素」コースの受講か同等の知識が必要です。

### 学習内容

- PROC REPORTを使用して、テーブル詳細レポート、合計・小計付きの詳細レポート、計算列を持った詳細レポートを作成します。
- PROC REPORTやPROC TABULATEを使用して、GROUP変数、ACROSS変数、CLASS変数に基づいた要約レポートを作成します。
- レポートに適切な集計行を挿入します。
- RTF、PDF、HTMLの出力先にレポート出力を送ります。
- ODSオプションやスタイルの上書きによるレポートの変更を行います。

### コンテンツ

- アウトプット・デリバリ・システム イントロダクション
  - ・ODS出力先へのレポートの送信
- TABULATEプロシジャによる要約レポートの作成
  - ・基本のPROC TABULATEステートメントの利用
  - ・テーブルの拡張
  - ・パーセンテージの追加
- 上級TABULATEプロシジャのトピック
  - ・PROC TABULATEでの欠損値の操作
  - ・PROC TABULATEでのODS STYLE=オプションの利用
  - ・ページやBYグループでの作業
  - ・行構造の制御とデータのサブセット化
  - ・PROC TABULATEでのマルチラベル出力形式の利用
  - ・PROC TABULATEとリスト出力での作業
- REPORTプロシジャでの詳細レポートの作成
  - ・基本のREPORTプロシジャステートメント
  - ・要約行の追加
  - ・追加列の計算
  - ・リスト出力におけるPROC REPORTの作業
- REPORTプロシジャでの要約レポートの作成

- ・GROUP変数の定義と利用
- ・ブレイク行のカスタマイズ
- ・ACROSS変数の定義と利用
- 上級PROC REPORTトピック
  - ・ACROSS変数による絶対列名の利用
  - ・欠損値とPROC REPORTの作業
  - ・PROC REPORTにおけるSTYLE=上書きの作業
  - ・CALL DEFINEステートメントの利用
- ODSでのレポートの拡張
  - ・ODS出力先ステートメントへのオプションの追加
  - ・追加のODS機能の利用
  - ・ODSでのカスケードリング・スタイル・シートの利用

## 対象プロダクト

Base SAS®

## お申込み要領

下記必要事項を、e-mail またはファックスで相鉄エージェンシー内事務局までご連絡下さい。  
(ファックスで申し込まれる方は、このページをご利用下さい。)

申し込み受領後に参加費のお振り込み方法をご連絡・返信申し上げます。  
横浜市立大学国際共同臨床研究推進実行委員会事務局  
株式会社相鉄エージェンシー内 担当：  
〒221-0052 横浜市神奈川区栄町 5-1 YCS5 階

TEL : 045-450-1831  
FAX : 045-441-8444  
e-mail : YCUworkshop@soag.co.jp

申込み期限：平成 22 年 1 月 25 日 (月) (定員に達し次第締め切らせていただきます。)

### 記

参加ご希望の事業にチェックをしてください。

- ハーバード大学集中講座「広汎な基礎研究データを臨床に活かす方法」(2月1日) (定員 100名)
- 第3回 横浜市立大学先端医学研究センター 国際学術フォーラム  
「基礎研究シーズを臨床ニーズに活かす戦略と科学的ツール」(2月3日) (定員 300名)

お名前 (よりがな) :

所属先 :

所属先ご住所 : 〒

Tel 番号 :

Fax 番号 :

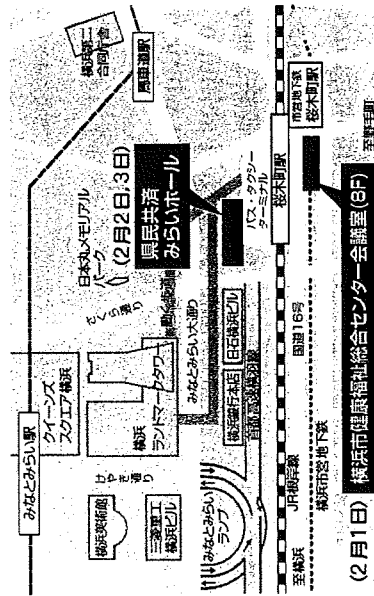
e-mail アドレス :

ご希望連絡方法 : e-mail / ファックス / 郵送 (○をつけてください)

ご希望料金 (1,000円) : 希望する / 希望しない (○をつけてください)

利用目的 : 今回頂きました個人情報はつきましましては、本フォーラムの運営管理の目的にのみ利用し、終了後放棄いたします。

## 集中講座(2月1日)、シンポジウム(2月2日)、フォーラム(2月3日)の開催場所のご案内



(2月1日) 横浜健康福祉総合センター 会議室(8F)

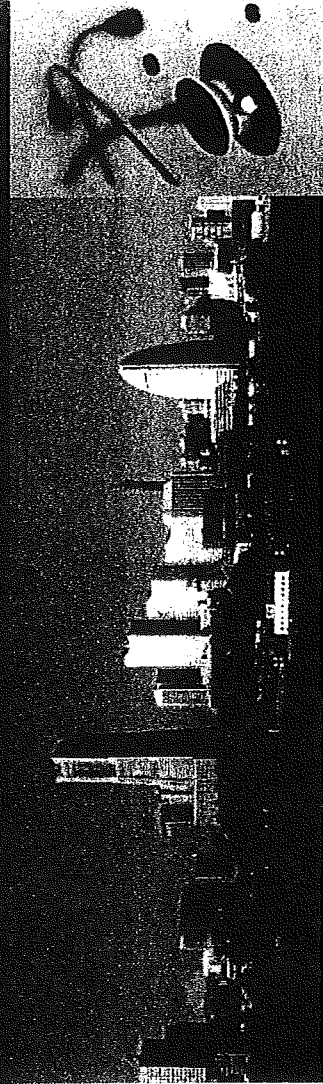


# 第3回 横浜市立大学 先端医学科学研究センター 国際学術フォーラム

The 3rd International Scientific Forum Organized by  
Advanced Medical Research Center, Yokohama City University

## テーマ: 「基礎研究シーズを臨床ニーズに活かす戦略と科学的ツール」

Strategic and Scientific Tools to Translate Basic Discovery/Seeds to Medical Clinical Needs



横浜市立大学は、横浜中期計画の一環としてがんや生活習慣病、免疫アレルギー性疾患等の原因究明と最先端の治療法開発や創薬など、臨床応用につながる研究を行うための先端医学科学研究センターを平成18年10月に開設しました。その後設備を進めつつ計画を強力に推進するため、平成19年度より年1回米国食品医薬品庁(FDA)はじめ国内外から著名な研究者を招き国際フォーラムを開催しています。

今回は、関連して開催されますハーバード大学集中講座「広汎な基礎研究データを臨床に活かす方法」(2月1日)と国際オミックス医療シンポジウム「次世代疾患オミックスの新展開」(2月2日)に連携させて、「基礎研究シーズを臨床ニーズに活かす戦略と科学的ツール」をテーマに選び、新しい薬剤や最先端の治療法開発の道筋について紹介・討論いたします。多くの方々のご参加をお待ち申し上げます。

日程：平成 22 年 2 月 3 日 (水) 9:30 ~ 17:30

会場：泉貝みらいホール (桜木町)

参加費：10,000 円 / 名 (行政・学術関係者は 5,000 円)

講師：FDA、Harvard 大学、MDAnderson がんセンター  
(予定) ほかに国内外研究者

主催：横浜市立大学、横浜市立大学国際共同臨床研究推進実行委員会

共催：東京医科歯科大学

後援：厚生労働省、横浜市 (予定)

定員：300 名

お申込み先：横浜市立大学国際共同臨床研究推進実行委員会事務局

株式会社相鉄エージェンシー内 担当：

〒221-0052 横浜市神奈川区栄町 5-1 YCS5 階

TEL 045-450-1831 FAX 045-441-8444 YCUworkshop@soag.co.jp

お問合せ先：



プログラム概要 (スケジュール、講師、議題が予告なしに変更となる場合があります。)

### 第3回 横浜市立大学先端医学科学研究センター 国際学術フォーラム

The 3rd International Scientific Forum organized by  
Advanced Medical Research Center, Yokohama City University  
テーマ: 「基礎研究シーズを臨床ニーズに活かす戦略と科学的ツール」  
Strategy and Scientific Tools to Facilitate  
Processing Basic Discovery Seeds to Meet Clinical Needs

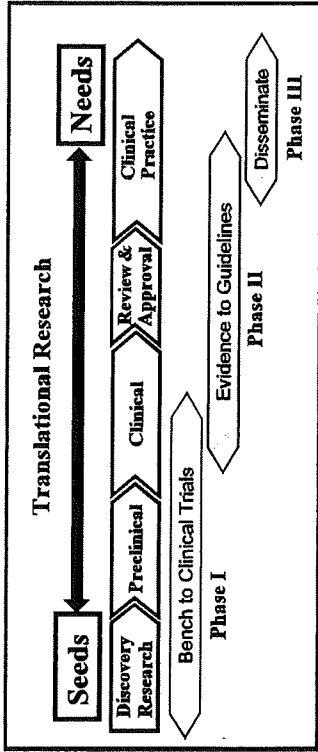
February 3, 2010  
at Kenmin Kyosai Mirai Hall in Yokohama  
2010年2月3日  
泉民共済みらいホール (於桜木町)

#### Program (DRAFT)

- 9:30 - 10:00 **Opening Remarks** (開会の辞および挨拶)  
布施 勉 横浜市立大学学長  
厚生労働省 医薬品医療機器総合機構理事長  
近藤 達也 (横浜) 横浜市立大学先端医学科学研究センターの取組と展望
- 10:00 - 10:30 **Opening Presentation** (基調報告)  
Current Plans and Future Vision of Advanced Medical Research Center, YCU  
(横浜市立大学先端医学科学研究センターの取組と展望)  
井上 登美夫 横浜市立大学先端医学科学研究センター長 大学院医学研究科放射線医学教授
- 10:30 - 12:00 **Session 1**  
Methods and Tools for Translational Science and Diagnostic, Prognostic and Predictive Biomarkers  
(トランスレーショナル・サイエンスの手法およびツールと診断、予後、治療予測のためのバイオマーカー)  
- Mark S. Boguski, MD, PhD, Center for Biomedical Informatics, Harvard Medical School  
- Peter J. Tonellato, PhD, Center for Biomedical Informatics, Harvard Medical School & Children's Hospital of Boston
- 12:00 - 13:00 **Lunch Break** (昼食休憩)
- 13:00 - 15:00 **Session 2**  
Development of Biological Products and Drugs Based on Gene Polymorphism and Gene Mutations  
(遺伝子多型と遺伝子変異に基づく新しい治療法と薬剤の開発)  
- 大政 健史 大阪大学大学院工学研究科生命先端工学専攻  
- Samir Lababidi, PhD, FDA-CBER  
- Elizabeth Stafford, PhD, FDA-CDRH  
- 杉山 雄一 東京大学医学研究所 分子薬物動態教室
- 15:00 - 15:30 **Coffee Break** (休憩)
- 15:30 - 17:30 **Session 3**  
Current Issues and Future of Personalized Medicine (個別化医療の課題と未来)  
- 長村 文孝 東京大学医学研究所附属病院 医療安全管理部  
- 津谷 喜一郎 東京大学大学院薬学系研究科 医薬政策学  
- David Yang, PhD, Department of Experimental Diagnostic Imaging, MD Anderson Cancer Center  
- M. Eileen Dolan, PhD, Department of Medicine, The University of Chicago
- 17:30 - 17:35 **Closing Remarks** (開会の辞)
- 17:35 - 18:30 **Poster Discussions** (ポスターディスカッション、同ビル6階にて)

\* 同時通訳つき

### Yokohama Joint International Forum on Translational Research and Personalized Medicine



### 関連事業のお知らせ

#### ハーバード大学集中講座「広汎な基礎研究データを臨床に活かす方法」 Intensive Course by Center for Biomedical Informatics, Harvard Medical School "To Translate Extensive Basic Research Data into Clinical Research and Practice"

日時: 平成22年2月1日(月) 10:00~17:00  
 場所: 横浜市健康福祉総合センター 8階会議室 (桜木町)  
 概要: ハーバード大学がWebを使って提供している教育プログラム(Palaver Seminar on Translational Medicine, 2009)の集中講座。ハーバード大学から、本セミナーの講師3名が来日し、トランスレーショナル・サイエンスの手法や成功例などについて、高度な内容の講義を集中的に提供し、講師と直接対話ができる良い機会になります。

講師: Peter Tonellato, PhD, Mark Boguski, MD, PhD, Vince Fusaro, PhD (ハーバード大学医学部)

コルナ: 栗田 豊 横浜市立大学大学院医学研究科臨床試験学

高井 真子 東京医科歯科大学システム情報生物学

共催: 東京医科歯科大学(予定)

参加料: 一般5,000円、行政・学術関係者2,000円

\*お申し込み時にお弁当のご希望をお受けいたします。(1,000円)

定員: 100名

\*申し込み、問い合わせ先は、  
2月3日国際学術フォーラムと  
同じです。裏面の申し込み概要  
をご参照下さい。

#### 国際オミックス医療シンポジウム「次世代疾患オミックスの新展開」 International Symposium on Omics-based Medicine and Systems Pathology, "The Opening of the Next Generation in Omics-based Medicine"

日時: 平成22年2月2日(火) 10:15~18:00

場所: 泉民共済みらいホール (桜木町)

概要: 次世代シーケンシングにより、個々人のゲノム情報やエピゲノム情報が利用可能となる新たなパラダイムシフトを身振え、個別化医療の新展開について、国際的に活躍する研究者が集い議論します。

演者: Huanming Yang, PhD, Beijing Genomics Institute, China

Peter Tonellato, PhD, Harvard Medical School, USA

Mark Boguski, MD, PhD, Harvard Medical School, USA

原玉 福彦 東京大学先端科学技術研究センター

田中 博 理化学研究所基幹研究所

近藤 伸一 東京医科歯科大学薬理生命科学研究所

主催: 東京医科歯科大学 科学技術振興調査新鋭分野人材養成/バイオ医療オミックス情報学人材養成プログラム

共催: オミックス医療研究会、横浜市立大学(予定)

参加料: 無料

お問合せ先: omix2010@bioinfo.tmd.ac.jp http://bio-omix.tmd.ac.jp/

定員: 300名

# Clinical Use, Efficacy and Translation of Basic Discoveries

## An International Workshop on Translational Science

February 1, 2010  
Kenko Fukushi Sogo Center, Yokohama, Japan

### Program

February 1, 2009

#### 10 : 00 - 11 : 40 Translational Science and Safe Acceleration from Bench to Bedside

Chaired by : Yutaka Natsumeda (Yokohama City University Graduate School of Medicine)

##### 10:00 – 10:10 Introductory remarks

Yutaka Natsumeda (Yokohama City University Graduate School of Medicine)

##### 10:10 – 10:55 An International Collaboration for Translational Science

Peter J. Tonellato (Harvard Medical School)

##### 10:55 – 11:40 Structure of Protein Interaction Networks and their Implication on Drug Design

Hiroshi Tanaka (Tokyo Medical and Dental University)

#### 11:40 – 13:00 Lunch break

#### 13:00 – 15:00 Methods and Tools of Translational Science

Chaired by : Peter J. Tonellato (Harvard Medical School)

##### 13:00 – 13:30 Biomedical Informatics Infrastructure Supporting International Translational Science

Vincent A. Fusaro (Harvard Medical School)

##### 13:30 - 14:00 Computational Acceleration and Methods in Translational Science

Dennis P. Wall (Harvard Medical School)

##### 14:00 – 14:30 Biomedical Modeling from the Viewpoint of Inverse Problems

Akihiko Konagaya (Tokyo Institute of Technology)

#### 14:30 – 14:45 Break

#### 14:45 – 16:15 Case Studies of Translational Science

Chaired by : Takako Takai (Tokyo Medical and Dental University)

##### 14:45 – 15:15 Autworks: Translating Basic Discoveries Across Diseases With System Biology

Dennis P. Wall (Harvard Medical School)